

Animal Worship

Welcoming the Double-Ram Zun from the British Museum



2015年

1月10日(土)

2月22日(日)

【休館日】毎週月曜日、ただし1月12日(月・祝)

は開館し、13日(火)は休館

特別展

動物礼讃

根津美術館
NEZUMUSEUM



時空を超えた奇跡の出会い

「未年の幕開けにふさわしく、根津美術館は、羊をはじめとする動物モチーフを扱った絵画・工芸の作品約70件をご覧ください、特別展「動物礼讃 一大英博物館から双羊尊がやってきた！」を開催いたします。

見どころは、なんといっても、世界にたった2点(根津美術館とロンドンの大英博物館)しか確認されていない中国古代の青銅器「双羊尊」(中国・紀元前13~11世紀)を、並べて展示することでしょう。本展覧会は、いまなお多くの謎を秘めたこの青銅器の名品を間近にご覧いただける、またとない機会となります。

中国古代から日本の近世に至る作品をご覧ください本展覧会のテーマは、4つに分けられています。その最初のテーマは、大英博物館や京都・泉屋博古館が所蔵する中国古代の青銅器の優品、続いて神仏に仕える霊獣たちを表わす仏教絵画、龍虎の力強さを描写した水墨画や、権威や吉祥の意味を示す動物を画題とした絵画、最後は茶会や日常生活の場を飾る愛らしい動物たちです。「双羊尊」をはじめとする、館内外のコレクションから選りすぐった優品の数々を通じて、動物に対する畏怖や憧れ、愛らしさといった、人間と動物との様々な関わり方をご鑑賞いただきます。

大英博物館から双羊尊がやってきた!

重要文化財 双羊尊 中国・むせく・湖南省
紀元前13~11世紀 根津美術館蔵

双羊尊 中国・むせく・湖南省
紀元前13~11世紀 英国・大英博物館蔵
© The Trustees of the British Museum. All rights reserved.



テーマ1 古代中国の動物

力強い角、鋭い牙、大きく見開いた眼—
人間を超えた強さをもつ動物に、古代人は霊的パワーを感じた。



双羊尊 中国・おそらく湖南省
中国・紀元前13～11世紀
英国・大英博物館蔵

©The Trustees of the British Museum. All rights reserved.

空前絶後！ 口が開いた酒器で高い足を付ける尊は、古代中国の彝器(神や祖先を祀る儀式に用いる器)として数多く製作されたが、器の両脇に羊を表す双羊尊の形はきわめて希少。世界にふたつしかない名品「双羊尊」が、根津美術館で初めて出会う。2つの作品の微妙な違いは、何を意味するのだろうか。



重要文化財 双羊尊 中国・おそらく湖南省
中国・紀元前13～11世紀
根津美術館蔵



重要美術品 虎卣
中国・西周時代 紀元前11世紀
京都・泉屋博古館蔵

虎が人を抱きかかえる様子を表わした卣(釣手のある器)。神虎が、邪鬼を食べようとする、あるいは人間を守る、との説がある。

テーマ2 仏教絵画に描かれた動物

文殊菩薩の獅子、春日明神の鹿、説話画に登場する邪鬼たち—それらは神仏の威力を示すために欠かせないモチーフである。

重要文化財 十二因縁絵巻
日本・鎌倉時代 13世紀
根津美術館蔵

仏教が説く12の苦悩を、折吒王が12の羅刹(鬼)を次々に退治する物語で説明する。羅刹の情けない顔やユーモラスな表情の動物たちが楽しい。



テーマ3 画題になった動物

権力者に愛された鷹や獅子、宴を彩る華やかな花鳥—動物のテーマは、日本絵画の一ジャンルを形成した。

花鳥図(右隻) 芸愛筆
日本・室町時代 16世紀
根津美術館蔵

鷹に追われ芦の茂みに身を隠す白鷺、枝に羽を休める鷹—鳥たちの営みと色鮮やかな花葉を描く本図には、不思議な雰囲気漂う。



テーマ4 生活を彩る動物

動物の美しさ、ユーモラスな愛らしさ—
動物を象った器を使う人々の暮らしは、楽しく、
豊かである。



重要美術品 黄瀬戸獅子香炉
日本・桃山時代 16～17世紀
根津美術館蔵

手をあわせた猿のような爪をつけた蓋に、身は大きく口を開けた獅子を象ったユーモラスな香炉。



ねずみたんけい
鼠短檠
日本・江戸時代 18～19世紀
根津美術館蔵

夜の茶席(夜嘯)に使う灯火具。灯明皿の上の油が少なくなると、自動的に鼠の口から菜種油がしたたる趣向が茶人に好まれた。

そのほかの主な作品

鷓鴣臼 中国・殷(商)時代 紀元前14～11世紀 泉屋博古館蔵

海獣葡萄鏡 中国・唐時代 7世紀 村上英二氏寄贈 根津美術館蔵

猿猴図 黄筌印 中国・元時代 13世紀 根津美術館蔵

牡丹猫図 蔵三筆 日本・室町時代 16世紀 根津美術館蔵

春日鹿曼茶羅 日本・室町時代 15世紀 根津美術館蔵

蛙草紙絵巻 伝土佐光信筆 日本・室町時代 15世紀 根津美術館蔵

いろえびぜん 猿おきもの 色絵備前猿置物 日本・江戸時代 18～19世紀 根津美術館蔵

染付波兔文変形皿 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

同時開催

展示室5

百椿図

江戸時代のはじめ、空前の椿園芸ブームのなかで制作された「百椿図」。100種類以上の椿が色鮮やかに描きだされた2巻の巻物で、新春を華やかに飾ります。



ひやくちんず かのうさんらく 2巻のうち本之巻(部分)
日本・江戸時代 17世紀 茂木克己氏寄贈 根津美術館蔵

様々な器物を花器に見立てて椿を描くのが「百椿図」の特徴。花瓶や籠、三方や膳などはもとより、盃や茶碗、文箱や硯箱、扇や団扇、あるいは鼓、色紙や冊子、ちりとりや羽箆、はては聖護院大根にいたるまで、身の回りの品々に椿を自由に飾っている。

展示室6

「初月を祝う」

初月とは、一年の最初の月のこと。新年を祝う吉祥や、平成27年歌会始の御題「本」の文字から連想した茶道具など、約20点を取合せます。



ゆきやなぎ 銘雪柳 瀬戸
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

ゆきやなぎで雪柳手と呼ばれる茶入の、本となる作品。胴全体に黄釉が幾筋も流れ、その景色を春の柳に積る雪にたとえて、雪柳の銘がつけられた。



ごほんたちづるちやわん 御本立鶴茶碗 高麗茶碗
朝鮮・朝鮮時代 17世紀
根津美術館蔵

日本が注文した形をもとに朝鮮で焼いた茶碗を、御本と称する。この立鶴文は、徳川三代将軍・家光が描いた絵を下図にしたと伝わる。

関連プログラム

【講演会1】 「双羊尊 一般時代における揚子江流域の青銅器製作—」
日時 1月18日(日) 午後2時 - 3時30分
講師 ジェイ・シュウ(許 杰)氏 (美術史家 サンフランシスコ・アジア美術館館長)
※日中逐次通訳付き

【講演会2】 「中国古代青銅器の動物意匠 —双羊尊を中心に—」
日時 1月31日(土) 午後2時 - 3時30分
講師 廣川 守氏 (泉屋博古館 学芸課長)

*会場はいずれも根津美術館講堂(定員各130名)

(申し込み方法) 往復葉書に、参加を希望される催事名(「講演会1」または「講演会2」)と住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「動物礼讃」展講演会係宛にお申込みください。
*「講演会1」は1月5日(月)、「講演会2」は1月17日(土)締切(当日消印有効)
*参加希望者1名1講演会につき、1枚の往復葉書でお申込みください。

【スライドレクチャー】 日時 1月23日(金)、2月6日(金) いずれも午後1時30分から約60分
場所 根津美術館 講堂(先着130名)

※講演会・スライドレクチャーとも聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

開催概要

- 【展覧会名】 特別展「動物礼讃 一大英博物館から双羊尊がやってきた！」
- 【主催】 根津美術館
- 【協力】 大英博物館 公益財団法人泉屋博古館
- 【開催期間】 2015年 1月10日(土)～2月22日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日、ただし1/12(月・祝)は開館し、1/13(火)は休館
- 【入館料】 一般1200円(1000円) 学生1000円(800円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券】 一般1100円 学生900円
2014年11月13日(木)～12月23日(火・祝)「誰が袖図 一描かれたきもの—」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
- 【お問合わせ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
*携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

次回展



コレクション展

救いとやすらぎのほとけ—菩薩

2015年 3月7日(土)～4月6日(月)

地蔵、文殊、普賢、観音—衆生とともに歩み、教え導く菩薩のさまざまなすがた。
普賢十羅刹女像 日本・鎌倉時代 13～14世紀 根津美術館蔵

【リリース・広報のお問い合わせ】

担当： 所、村岡、羽田 TEL:03-3400-2538 (直) FAX:03-3400-2436 MAIL:press@nezu-muse.or.jp